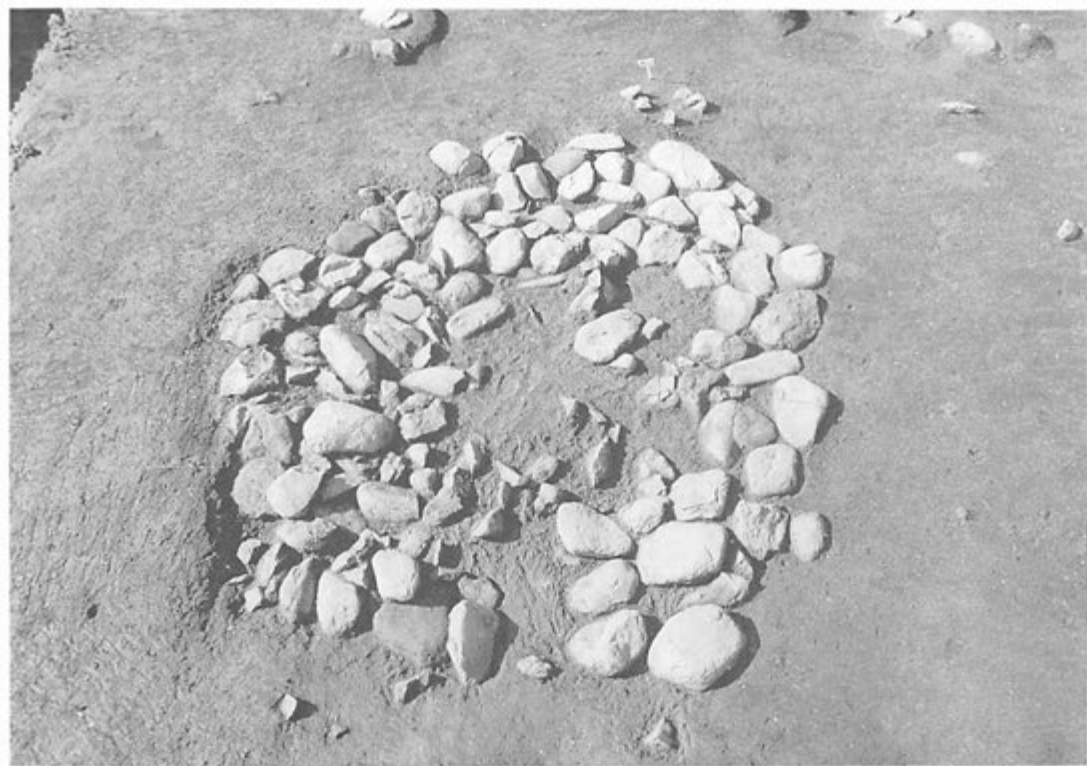




埋文だより

第3号

平成5年3月30日発行



男性の墓だとわかった配石遺構（西丸尾遺跡）

自然科学が謎解く遺跡の性格

自然科学を利用した考古学的研究は少なくありません。炭化物による年代測定や、当時の環境復元のための花粉分析、炭化材による樹種同定、火山灰同定、黒曜石の産地同定等多種の関連科学が利用されています。

鹿屋市西丸尾遺跡で発見された配石遺構は脂

肪酸分析の結果、男性の墓の可能性ができました。また、南種子町横峯遺跡の礫群は、年代測定の結果、日本でも最古（3万年以上前）の炉跡だということがわかりました。

今後も総合的研究によって遺跡の性格もより明確になってくるでしょう。

平成4年度の主な発掘調査

当センターは、先人の残した貴重な文化遺産である埋蔵文化財の調査・研究をはじめ、出土品の展示・公開及び文化財愛護思想の啓発等を行う新しい拠点として昨年4月開所しました。

以来、関係機関や県民の協力により、その機能を発揮しつつあります。

ここでは、これらの業務のうちの発掘調査について、平成4年度実施分をまとめて紹介します。

発掘調査した主な遺跡

①上野原遺跡（所在地：国分市）

鹿児島湾を目前に見おろす標高約250mの台地上にあります。昭和61年度・平成3年度に確認調査され、平成4年度から継続しての調査が始まりました。

ここには、縄文時代（約7,500年前）から古墳時代（約1,500年前）に至るまでの長い間、各時代の人々が生活したあとが残っています。

平成4年度の調査地域内では、縄文時代早期後半（約7,500年前）の土器や石器などの遺物（約35,000点）や、蒸し焼き料理に使用されたと考えられる集石遺構が89基見つかりました。

また、縄文時代後期（約3,500年前）ごろの動物を獲るための陥し穴と思われる穴も20基以上見つかりました。



上野原遺跡の作業風景

②星塚遺跡（所在地：始良郡横川町）

天降川右岸の段丘にあり、今回の調査で、旧石器時代（約13,000年前）・縄文時代（約8,000

年前）・古代（約1,200年前）の遺跡であることがわかりました。

旧石器時代では、割るとガラスのように物が切れる黒曜石等を打ち割って作った細石刃という石器などが出土しました。

縄文時代は、早・前・後・晩期の4期にわたっており、それぞれ各時期ごとに土器や石器が多量に出土しました。

早期では、蒸し焼き料理に使用されたと考えられる集石遺構が5基発見されています。

古代では、土師器や紡錘車、土錘も見つかりました。土錘は網のおもりとして使用されたもので、天降川での漁に使ったものかもしれません。

③東田遺跡（所在地：肝属郡高山町）

東串良町との町境に近い標高約5mの水田にあり、縄文時代の終わり（約2,300年前）から中世（約600年前）まで長期間にわたっての遺物が発見されています。出土遺物の多くは弥生時代（約2,000年前）から古墳時代（約1,600年前）のもので、この中には東九州・瀬戸内系のものも含まれています。

各時代のものが混ざって出土することから、肝属川の氾濫にあったものと考えられます。

④諏訪遺跡（所在地：始良郡栗野町）

会社の社員寮建設に伴い、平成3年度に確認調査を、平成4年度に発掘調査をしました。

調査の結果、縄文時代早期の集石（1基）や古代（約900年前）の道路跡がみつかりました。

遺物では、旧石器時代（約13,000年前）の石器や、縄文時代後期から晩期（約3,000年前）の土器・石器が出土しました。

⑤川上貝塚（所在地：日置郡市来町）

この貝塚は市来貝塚とも呼ばれ、縄文時代後期（約3,500年前）の代表的な土器である市来式土器の標識遺跡です。

平成2年度と4年度に遺跡の保存・活用のための発掘調査が行われ、貝塚の範囲や遺跡の様子が明らかになりました。

出土遺物は、縄文時代後期の大量な土器や石器、装飾品や動物骨、魚骨、貝殻などです。特に、組み合わせ石銛（西九州型魚撈具）の発見が目されるなど、まさにこの貝塚は「タイムカプセル」そのものです。

⑥サモト遺跡（所在地：大島郡住用村）

奄美大島の住用湾に面した砂丘状の微高地にあります。

これまで熊本大学によって2回の学術調査が行われましたが、今回さらに遺跡の性格や範囲を確認するために、発掘調査を行いました。

今回の調査では、方形に石組みをした住居跡と思われる遺構が見つかりました。

出土遺物は、縄文時代晩期から弥生時代中期（約2,500年前～2,000年前）までの時期の土器などが出土しました。

特に、のこぎりの歯のような刃部をした磨製石器は出土例も少なく注目されています。



サモト遺跡の住居跡

⑦中尾立遺跡（所在地：始良郡福山町）

舌状台地の先端部にある、平安時代の遺跡です。向きをほぼ同一にした掘立柱建物5棟などが発見されました。建物は、それぞれの中央や隅に炉跡があり、その中にはたくさんの石が敷かれたものもありました。

建物のまわりから多くの土師器や須恵器が出てきましたが、土師器の中には墨で字の書かれたものが20数点あり、遺跡の性格を考えるうえで注目されます。

平成4年度 発掘調査等一覧

遺跡名	事業名	事業主体者
前原遺跡 松元町	西回り自動車道	建設省
榎堀遺跡 松元町	〃	〃
西丸尾B遺跡 鹿屋市	国道220号バイパス	〃
上野原遺跡 国分市	国分上野原テクノパーク	県開発 公社
星塚遺跡 横川町	県道紫尾田牧園線	県土木部
東田遺跡 高山町	県道高山吾平線	〃
竹牟礼遺跡 蒲生町	基幹市町村道	〃
舞鶴城跡 国分市	国分高校屋体建設	県教委
35遺跡 21市町	県営農業基盤整備事業	県農政部
6遺跡 大根占町 根占町	国営肝属南部農地開拓	農林 水産省
川上貝塚 市来町	重要遺跡確認調査	市来町
サモト遺跡 住用村	〃	住用村
9遺跡 9市町	町道拡幅等	各市町

平成4年度 分布調査一覧

分布調査名	事業目的	事業内容
一般埋蔵文化財分布調査	農業基盤整備事業等各種開発予定地内の埋蔵文化財分布調査	県下52市町村
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査	事前に埋蔵文化財の分布調査を実施し、埋蔵文化財保護と開発の調整を図る	樋脇町、東郷町、鶴田町 104遺跡発見
サン・オーシャン・リゾート地域埋蔵文化財分布調査	サン・オーシャン・リゾート計画地域について分布調査を実施し、埋蔵文化財の保護と開発との調整に必要な資料の整備を図る	西之表市、中種子町、南種子町、屋久町、上屋久町 41遺跡発見

当センターでは、常設展示のコーナーの他に速報展示のコーナーを設けています。

速報展示のコーナーは、最近行われた発掘調査の最も新しい成果をいち早く県民の皆様にご紹介することを主な目的としています。

平成4年度は、県や市町村の事業として約100か所の調査を行いました。県の事業としては、南九州西回り自動車道建設に伴う調査や国分市上野原テクノパークの造成に伴う調査、県道新設及び拡幅工事に伴う調査等があります。

また、市町村事業としては、重要遺跡確認調査、農業基盤整備事業に伴う調査、都市計画事業に伴う調査等があります。

今回の速報展では、こうした調査で出土した遺物のうち、主要なものを選んで展示しています。その一部を紹介します。

上野原遺跡では、縄文時代早期から古墳時代にかけての遺物が数多く発見されましたが、その中から、縄文時代早期の円筒形土器・押型文土器・桑ノ丸式土器や平袴式土器、石斧・石鏃・石匙・石錐・異形石器等が展示してあります。平袴式土器は沈線文・刺突文・縄文等華やかな文様の土器があります。異形石器は形が石匙に似ていますが、刃部は平らでなく、側縁にかけて5か所の突起があるものです。

前原遺跡・^{カサガハ}柵堀遺跡は、両遺跡共に旧石器時代や縄文時代の遺物が発見されています。前原遺跡では縄文時代の磨石・凹石・石鏃・石匙・磨製石槍・尖頭器等の遺物が展示されています。特に磨製石槍は埋文だより2号で紹介したように、磨かれた石槍としては日本で最も古く、珍しいものです。柵堀遺跡のものでは、縄文時代早期から晩期の土器・石匙・石鏃や、旧石器時代の尖頭器・細石核等が展示されています。

東田遺跡では、弥生・古墳時代の遺物が出土しています。弥生時代の器台や壺・高坏、磨製石斧・打製石斧・^{ヒメ}巖石等が展示してあります。

竹牟礼遺跡では、縄文時代早期の^{ヒメ}塞ノ神式土器や石鏃・石錐・異形石器、平安時代の刻書の

ある土師器・紡錘車等が展示してあります。

星塚遺跡では、旧石器時代・縄文時代・古代の遺物が出土しています。縄文時代前期の野口式土器・曾畑式土器・深浦式土器や、縄文時代晩期の完形土器、細石刃・細石核・石匙・石鏃・土錐などが展示してあります。

川上貝塚では、縄文時代後期の資料が豊富に出土しました。市来式土器・納曾式土器・西平式土器・鐘崎式土器等の完形土器や、組合せ銚等の石器、貝輪等の貝製品、釣針・かざし等の骨角器などが展示してあります。



川上貝塚出土遺物

諏訪遺跡では、旧石器時代の細石核・細石刃・三稜尖頭器・スクレイパーなどが展示してあります。

床並B遺跡では、旧石器時代の遺物が多く出土しました。細石核・細石刃・ナイフ形石器・彫器・削器等が展示してあります。

松尾ノ平遺跡は、旧石器時代の台形石器・尖頭器や古墳時代の小型壺形土器・土製杓子等が展示してあります。

横峯遺跡は、縄文時代早期の苦浜式土器や石匙・石斧・磨石などの石器が展示してあります。

この他に、前からの継続展示として加治木町干迫遺跡の縄文時代後期の土器や各種の石器・土製品・石製品、松元町仁田尾遺跡の縄文時代早期の土器や石鏃、細石核、上屋久町岡遺跡の青磁・白磁・羽釜などもあります。

開所記念講演会から（その3）

平成4年9月26日

シンポジウム「考古学から見た南九州の特色」

—紀元前3世紀から紀元後9世紀頃の南九州の社会—

小田富士雄 … 福岡大学人文学部教授
上村 俊雄 … 鹿児島大学法文学部教授
河口 貞徳 … 鹿児島県文化財保護審議会委員
高島 忠平 … 佐賀県文化財課長
中村 明蔵 … 鹿児島女子短期大学教授
新田 栄治 … 鹿児島大学教養部教授
松下 孝幸 … 山口県豊北町社会教育課主幹
西 健一郎 … 九州大学文学部助手

第3回講演会は、会場を「サンビアあいら」に移し、約170名の聴衆の中で開催されました。

所長によるパネラー紹介の後、西先生の司会で「稲作農耕文化の定着」「巨大古墳の出現」「隼人」の各テーマを設け進められました。

以下、内容を要約すると、日本列島に弥生文化が開花するころ、中国では、強烈な国家体制を備えた漢が成立し、その影響は東アジア一帯に及びました。このような緊張した世界の中で日本国内でも、新たな生産基盤に支えられ、国家成立の傾向が認められるようになり「歴史の並行現象」と呼ばれる状況が出現します。これらを支えていたものに、高度な稲作農耕技術が存在したと考えられています。また、この時成立した弥生文化が日本の基層文化であるといわれています。

いち早く北部九州に定着した弥生文化は、日本各地に展開し、南九州にも波及し、金峰町下原遺跡・末吉町上中段遺跡等に初期農耕の痕跡が認められます。その後、新たな生産様式の蓄積は、鹿屋市王子遺跡に見られるような大規模な集落を形成するようになります。また、各地域との交渉も盛んに行われ、高橋貝塚では南海産の貝製品を求め、南西諸島と北部九州との交易の中継基地の様相が伺えます。薩摩半島の各遺跡は北部九州と、大隅半島では瀬戸内・関西との関わりが指摘されています。一方、墓制等には土塚墓や立石墓等他地域に見られない地域色も見られ、南九州の地域性が現れ始めます。

しかし、弥生時代の終末になると遺跡の数が

減少することから、なんらかの社会変革の影響を受けたと想定されています。

古墳時代になると、成川式土器と呼ばれる南九州特有の土器が各地で発見されます。時には200軒を越す大規模集落も形成されています。住居内から炭化米が発見されたり、土器に朽痕がしばしばスタンプされることから、稲作農耕が行われていたことは明らかです。

この時期の墓制は川内川上流域や出水平野を中心に地下式板石積石室墓、大淀川流域・志布志湾沿岸に地下式横穴墓が造られます。これらの起源については諸説があり解決されていませんが、南九州特有の墓制として注目されています。また、5世紀に入ると志布志湾沿岸に巨大古墳が出現し、畿内勢力の進出が始まります。古墳の出現については諸説があり、定形化する以前のものとして川内市端陵古墳等が考えられていましたが、近年発見された阿久根市鳥越1号墳が、4世紀代に築造された可能性が高いことが指摘され注目を集めています。

隼人が文献に登場し始めるのは、7世紀の「続日本紀」が最初で、南九州の古代人の総称として表現されていたと解釈されています。隼人は度々反乱を繰り返していましたが、8世紀には班田収授が完了し、律令体制に組み込まれ、次第に歴史の中に組み込まれていったと考えられます。



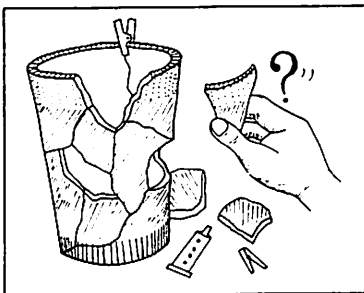
接合・復元

出土する土器の大半は、壊れています。古墳の石室の中や川跡などから出土するもの、あるいは須恵器や陶磁器など硬質のもの、小皿や小壺など小型のものなど一部のものに完形の状態で出ることがありますが、ほとんどのものはバラバラになるか、どこか欠けて出てきます。

なぜこのようになるのでしょうか。まず、壊れたものを捨てた場合があります。次に、完形のもののがちに壊れる場合があります。例えば廃屋となった家が朽ち果てた場合、家屋材によって壊れてしまいます。よごれたものを投げ捨てれば、バラバラになってしまいます。さらにこうしたものが、傾斜面を転げたり、モグラなど地下に住む動物や木の根、あるいは立木・草などによって動かされたり、強風や水によって移動させられ、今日私達が発掘するような状況になります。割れ口をみると相当の距離を転がったらしくツルツルになったものもあります。こうしたことによって元位置をどの位動いているか推し量ることもできます。

このようにして出てきたものを私達は元通りにする作業をします。接合・復元の作業です。今回は、この作業を紹介しましょう。

注記までおわたた土器片は、出た場所ごとに分けて広げます。くつつくものはそんなに遠い場所には離れていないものです。だから取り上げるときには、どこから出てきたのかをこまかく図面にとどめ、分けながら取り上げなければなりません。ただ無茶苦茶に広げて接合してもくつつきません。表なら表、裏なら裏といったように同じ面を出します。また上の方とか、中央部分とか、あるいは底に近い部分とか、場所ごとに



分けるとくつつき易くなります。文様の種類によって分けることも必要です。ジグソーパズルと同じ要領です。

くつついたらそれを並べて置きます。あわてて接合すると、あとからくつついた時に間に入らなくなったり、完全に近くなった時にひずんだりしてきます。できるだけ大きくなってから一気に接合するほうがひずみは少なくなります。少しのひずみが、大きくなると次第にひどくなり、ゆがんだり、空間ができたりしてきます。最後になってひずまないようにするためには、ひとつひとつの接合をぴったりあわせるよう力を込めてしなければならぬのです。接合にはセメダインを使います。あまり強く接合しすぎると、あとではずさねばならない時に粘土ごとはずれてしまいます。だから、ポンドなど強力な接着剤はあまりいいとはいえません。

こうして接合していても全部の破片がぴったりくつつくことはあまりありません。たいていの場合、あちこちに穴があきます。ここには石膏を入れて穴を埋めます。石膏を埋める時は、周辺をよごさないことが大切です。石膏は平面になっていますから、そこに周辺と同じような文様をつけることも見映えの面では必要です。彫刻刀などを使って文様をつけていきます。さらに、この上に色をつけます。水彩絵の具のほうが修正をしやすいし、上塗りができるのでやり易いといえます。色付けをしたほうが、写真撮影や展示の時に有効です。

接合は、土器だけではなく、石器や鉄器でも行います。石器の場合は、接合することによって、どのようにして元の石から石器が作られたのかがわかります。鉄器もくつつけますが、サビ落としなどをしなければならないので、土器と違って工夫が必要です。接着剤もアラライトを使います。

この作業は根気強さが必要ですが、くつついた時の喜びは格別です。

発掘調査紹介(3)

老神遺跡

出水市教育委員会は、出水市武本地区の市来遺跡と、老神遺跡を調査しました。前者は平良川が東流する標高約38mの水田に、後者は市来遺跡に隣接した北側台地先端部の標高約46mに位置しています。調査地は「市来」、「上市来」、「馬差場」等の小字名から、古代の駅制「市来駅」に係わる遺跡としての候補地と言われる地です。

市来遺跡は、縄文時代晩期や弥生時代中期、古墳時代から平安時代にかけての土器等が出土しましたが、層位的な把握は困難でした。またそれらに伴う遺構は発見できませんでした。

老神遺跡の主体は古墳時代のもので、柱穴を伴う円形の堅穴住居跡が2基発見されました。2号住居跡からは成川式土器と共にヤリガンナ

2本が発見されました。その他、周辺から土師器、須恵器等が出土しました。

両遺跡の調査の結果、「古代の駅制」に関する遺構等は確認できませんでした。ただ、地名や出土土器等により駅に係わる資料が得られたことは意義深いので、盛土によって遺跡の保存を図りました。



最新の出土品から(3)

深浦式系土器(姶良郡横川町下ノ)

横川町下ノに所在する星塚遺跡は、一般地方道紫尾田～牧園線改良工事に伴って発掘調査(平成4年8月から11月の4か月間)が実施され、旧石器時代から縄文時代、歴史時代の多時期にわたって多量の遺物が出土しました。その中でも、縄文時代前期に該当する土器は完形品に近い状態でまとまって出土しており、また本県でも類例の希少なタイプですのでここで紹介しましょう。

前期該当の土器群は、アカホヤ火山灰層を基盤に形成されたⅢ層の包含層から出土しました。Ⅲ層からは、後期及び晩期の土器群も出土しています。前期の土器群は、二つのタイプに分けられます。一つは曾畑式土器の前段階の野口式土器や曾畑式土器の範疇に入るタイプで、他方はここに紹介する深浦式系土器の一群です。

深浦式系土器に該当するタイプは、5個体の完形に復元されるもののほかに数点の別個体の破片が出土しています。いずれも尖底に近い丸底のものです。5個体の完形品は、形態及び文

様構成がそれぞれ異なりますが、共通するところは貝殻腹縁で押引連点文を施す点です。写真の土器は、口縁部上端に5条の刻み目突帯文を横位に巡らせ、胴部には押引連点文を縦位や菱形の幾何学的に施文しています。口縁部の4か所には突起が作られ、頂部は環状のくぼみを持ちます。突起からは二条の突帯文が縦位に施文されます。そのほか、縦位の押引連点文間に沈線で「杉の木」状に描くものや、押引連点文で鋸歯文を描き、その中を沈線で埋めるタイプ、押引連点文のみで幾何学文を描くものがあります。そのほか破片には相交弧文を施文するものもみられます。



自由できごと

◎ サタデープラン

- ・第5回 2月13日(土) 参加者 21名

「土器の復元にチャレンジ」

小さな破片となった古代の土器をジグソーパズルみたいに接合して、元の形に復元するものです。当日は、模造品の土器や植木鉢を使い、元の形に作り上げる作業をしました。

- ・第6回 3月13日(土) 参加者 15名

「拓本で土器の文様を再現しよう」

土器の文様を和紙に、墨を使って浮かび上がらせるものです。

和紙の表面に、古代の文様がそのままに再現されていく様子に、参加者は強い興味を覚え、夢中で作業をしていました。

◎ 技術研修講座 3月18日(木)～19日(金)

参加者 9名(9市町)

市町村の埋蔵文化財専門職員の資質向上を目指すもので、平成4年11月に続いたの2回目の講座です。

内容

- ・「平成4年度の調査を振り返って」
(埋文センター調査課長)

- ・遺跡見学会

前原遺跡・朽堀遺跡(松元町)

- ・事例発表

3町10遺跡について、スライドを利用して成果を発表し、お互いの情報交換等に努めました。

入館者の状況(平成4年度)

5月9日に一般公開してから11か月がたとうとしています。すでに7,000人を超える人が見学に来ています。その中には県外からの見学者170名近くの人も含まれています。年代別では一般の人が60パーセントを占めています。

センター主催の講演会、サタデープランなどに出席する人も約13パーセントあり、これらの開催が、入館者増の大きな要素を占めていることを示しています。

(単位:人)

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
個人	180	218	300	348	119	103	89	126	236	76	1,795
団体	227	529	545	378	350	710	800	143	149	348	4,179
その他			317	100	198	66	115	19	21	24	860
計	407	747	1,162	826	667	879	1,004	288	406	448	6,834

【Contents】

- Science clear the character of sites.
- Our representative excavations in 1992.
- From the exhibition room.
 - The latest report from sites —
- Special lectures by guest speakers. (Part3)
- Arrangement of artifacts. (Part2)
 - Joining・Restoring —
- The site under excavation. (Part3)
 - Oikami Site —
- Artifacts most recently unearthed. (Part3)
 - Fukaura-type Pottery —

Highlights in the Institute.

The number of visitors to the Institute in 1992.

埋文だより 第3号

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995(65)8787

FAX 0995(65)8117